

第11回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会 議事概要

1. 日時：令和元年12月10日（火）10:00～12:00

2. 場所：札幌第1合同庁舎 10F 共用第1会議室

3. 出席者

・【委員】

産業界

赤渕 明寛	特定非営利活動法人 Digital 北海道研究会 理事
石田 廣幸	特定非営利活動法人 北海道G空間情報技術研究会 会長
及川 雅博	(一社) 日本写真測量学会北海道支部 役員
雫石 和利	(一社) 建設コンサルタンツ協会北海道支部 情報委員会 委員長
藤原 達也	(一社) 北海道産学官研究フォーラム 副理事長
山川 昇	(一社) 北海道測量設計業協 会長
大塚 義則	(公社) 日本測量協会北海道支部 技術センター長 (山口委員代理)

学界

金子 正美	酪農学園大学 農食環境学群 教授
橋本 雄一(座長)	北海道大学 大学院文学研究院 教授
村上 亮	北海道大学 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター 特任教授

官（公的機関）

西村 敦史	国土交通省 北海道開発局 事業振興部 技術管理課 技術管理企画官 (高橋委員代理)
鈴木 邦明	北海道 建設部 建設政策局 建設政策課 政策調整担当課長 (阿部島委員理)
伊藤 禎則	札幌市 建設局 土木部 維持担当部長
山後 公二	国土地理院 北海道地方測量部長

・【顧問】

山村 悦夫	北海道大学 名誉教授
-------	------------

・【取組報告者】

三好 達也	(一社) 地理情報システム学会北海道支部 支部長
喜多 耕一	北海道総合政策部情報統計局情報政策課 主査

・【事務局】

清水 乙彦	国土地理院 北海道地方測量部 次長
高畑 嘉之	国土地理院 北海道地方測量部 地理空間情報管理官
水越 博子	国土地理院 北海道地方測量部 測量課 技術専門員

・【随行者、オブザーバー】 計14名

4. 議事

1) 話題提供 1

- ・「GIS コミュニティ活動の全国的な傾向」
一般社団法人地理情報システム学会北海道支部 支部長 三好達也

2) 話題提供 2

- ・「北測協における担い手育成の取組み」
一般社団法人北海道測量設計業協会 会長 山川 昇

3) 話題提供 3

- ・「地図データを共有しなくてどうすんの？」
北海道総合政策部情報統計局情報政策課 主査 喜多耕一

4) 意見交換

5) その他

5. 配布資料

- ・[資料 1] 第 11 回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会委員名簿
地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会設置要綱
- ・[資料 2] GIS コミュニティ活動の全国的な傾向
- ・[資料 3-1～3-3] 北測協における担い手育成の取組み
- ・[資料 4] 地図データを共有しなくてどうすんの？
- ・[参考資料 1] ウェブ地図「地理院地図」について
- ・[参考資料 2] 地図利用手続の緩和について

6. 議事の経過

資料 2～4 に沿って話題提供が行われた。話題提供を踏まえて行われた情報提供、意見交換は、以下のとおり。

- ・北海道のコミュニティとして産学官連携を促進するために年間をとおしてイベントを開催している。都市部の交通維持だけでなく、地方の交通体系も維持する問題取組や千島海溝型地震への危機対応の啓発などを行っていきたい。
- ・人材育成として、GIS の新技術の講習（ドローン講習・三次元測量成果の検証・ソフトウェアでの加工・実装）などのコミュニティ活動を実施しているが、今後もさらなる活動を進めたい。
- ・今後の検査検定業務の品質確保、そのための人材確保は喫緊の課題となっている。
- ・様々な分野が集まった横断的な人材育成プログラムの取組が行われていないため、オール北海道として何か人材育成の取組が必要である。
- ・次世代を担う若者の確保は、民活力だけでは限界があり、官側と連携して取り組まなければならない。
- ・建設産業は、高齢化と若手減少が進んでおり、官民一体で取り組み、施工から維持管理まで一貫した i-Construction を進め、効率性と生産性の向上を図る必要がある。
- ・これまで非労働力となっていた方々の労働参加を促し、経験、能力の発揮していただけるよ

う取組を進めていく。官民で高校生などを対象に出前授業として ICT 体験などを行い、高性能測量機器などに触れ、興味を持ってもらえるようアピールする。

- 若者は、航空写真など GIS の基本データを示すと興味を持ってもらえるものの測量業界への就労となると非常に厳しい状況である。PR 動画などの方策を立てていきたい。
- 火山研究も人材枯渇に悩んでいたが、数年前から全国の大学は協力して人材を増やす取組を行い、徐々に効果が現れ、学生も増え始めている。
- 地理空間情報（デジタルデータ）は、保存期間が決められ、期限が過ぎれば削除されてしまう。オープンデータは、メタデータのようなものを付けて検索ができ、未来永劫保存していく仕組みを作っていくべきではないか。
- 基本的にオープンデータは、保存できる間は保存しておくべきだが、サーバーにも容量があるため、どうやって容量を増やしていくか、予算の獲得などの問題がある。
- GIS 情報の活用を促進するため、各部署で整理状況を把握する必要がある。
- 測量設計業界は、測量設計データの三次元化による測量成果作成に真剣に取り組む必要がある。しかし、一元的に精通している技術者はまだ少なく、受託者が三次元測量に関して提案していくためには、今後もセミナーを通して教育していかなければならない。
- これまで各機関のデータを探し、許可をとる交渉が非常に大変であった。今あるデータが、ひとまとめで公開されれば革命が起きるような気がする。一方で、同一場所の撮影が減ると産業界で少し困ることになると思うため、パイが大きくなるような仕掛けも必要ではないか。
- ハリケーンに匹敵するような災害が日本を相次いで襲ってくるかもしれない。そのようなときに地理空間情報を活用するという武器があることを肝に銘じ、頑張りたい。
- あと 2 年と 4 カ月で高校で GIS が必修化される。防災や環境に地理空間情報を扱うということが高校レベルで実現し、その人材が世に出てくることになる。興味を大事に育て、人材確保につなげられるように産学官で協力していきたい。

その他

事務局から今後のスケジュール等についての説明を行った。